

Meet the GLOBEプロジェクト ～日本の子どもたちの国際理解の促進～

国際交流学習の支援を通じて、日本の小学生・中学生・高校生の
発展途上国についての理解を深めるお手伝いをしています。



高校生が世界の問題について発表している様子

活動の概要

目的	日本の児童生徒の国際理解の促進
連携メンバー および役割	JICA青年海外協力隊の隊員の方々・・・派遣地域での活動をブログや手紙を通して日本の児童生徒に伝える 関西大学総合情報学部 久保田・黒上研究室・・・プロジェクト進捗状況の管理、学生に対するアドバイス プロジェクト学生メンバー・・・日本の児童生徒に対して、国際理解教育を行う
活動地域	大阪府内の高等学校 / 高槻市内の小学校
活動期間	2000年～(継続中)

連携の経緯

社会がグローバル化している中で、日本の教育現場では国際理解教育が必要となっている。久保田・黒上研究室では、日ごろの国際協力活動で培ったネットワークを活かし、大学生が仲介役となって国際ボランティアの方と児童・生徒を交流させるMeet the GLOBEプロジェクトを開始。両者のマッチングをする中で、依頼を受けた小学校・高校との連携が始まった。



小学校での授業の様子

高等学校での授業の様子

解決すべき課題

- (1) 海外で活動している国際ボランティアの方の広報の場の少なさ
- (2) 日本の児童・生徒の国際的な知識の不足

大学の役割

Meet the GLOBEプロジェクトは、発展途上国に派遣されている青年海外協力隊と日本の小学校や高等学校をつなげ、交流学習を通して国際理解教育の支援を行う取り組みである。具体的には、電子メールやウェブログ・テレビ会議システムなどを利用して、文章だけでなく写真や動画による交流を生み出す支援を行っている。日常的な活動は青年海外協力隊とのメール交流や各学校の授業支援、ミーティングによる授業内容の検討など多岐にわたり、プロジェクト学生メンバーは仲介役に留まらず、地球規模の問題を小学生や高校生と共に思索する役割を担っている。

これらのような、日本と現地双方の文化や生活を知る青年海外協力隊との交流は、協力隊自身の異文化体験を踏まえた発展途上国の現状を児童や生徒に伝えることに寄与している。また、授業に参加する児童生徒は、発展途上国に関する生きた情報の収集、自分の生活の振り返り、学習成果の発表などの体験的な学習により、異文化や国際協力についての理解を深めている。

現場の声

・近藤雅敏 (3年生)



これまで様々な海外の国に足を運んだ経験から、自ら体感することが一番の経験になると考えていました。しかし、Meet the Globeの活動を通して渡航経験のない国はもちろん、渡航経験のある国に関しての新たな知識を多く学ぶことができました。児童生徒への国際理解教育を促進するとともに、自らも国際理解をより一層深めることができている。今後さらに、より多くの児童生徒に国際理解教育を広げていけるよう青年海外協力隊の方々やプロジェクトメンバーとともに協力し、活動を行いたいと思います。

成果

- (1) 児童・生徒の国際理解の促進
- (2) 国際ボランティアの方の活動の広げ

今後の展望

- (1) 国際ボランティアの方の増加
- (2) 授業を行う学校の増加

研究者の紹介



総合情報学部
久保田・黒上研究室
(くぼた・くろかみけんきゅうしつ)

大学院の課題研究科目「ICTと新しい教育」を担当する久保田賢一、久保田真弓、黒上晴夫の3名の教員と大学院生がアクティブラーニングをテーマに活動する研究室です。フィールドでの体験を重視した学習活動を展開し、学部生と連携した活動を進めています。研究室には、国内外で地域の人々と協働した課題解決に向けた活動に取り組むさまざまなプロジェクトがあります。